

第 1 回水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 議事概要

1. 日時：平成 25 年 12 月 27 日（金）13:00～15:00
2. 場所：災害対策支援船「あらかわ号」
3. 出席者：別紙
4. 議事の内容
 - (1) 船上視察
 - ① 河川環境課長挨拶
 - ② 二天門船着場から浜離宮まで隅田川を船上視察
 - (2) 趣旨説明
 - ・事務局より懇談会の趣旨説明を行うとともに「水辺とまちの未来創造プロジェクト」の各取組みについて説明。
 - (3) コメンテーター自己紹介
 - ：これまで東京の川を見てきた。品川・芝浦は土地利用が変化しているが、隅田川・神田川は意外に時がとまっている状態。イベントや舟運などソフト面はよくなってきたが、事業部門はあまり参加していない。また、問題は民間企業が参加しなかったことで、これは大阪と異なる。川とまちを結びつけるというコンセプトは重要である。大阪の水辺には色気がある。
 - ：都市の水辺、都市の水辺に新しい水上経験をつくる、ということに着目して活動している。元々個人的に水辺や船に興味があるところから始まっているが、個人の楽しみと行政の管理にコンフリクトがあると考え。東京の都心の水辺は世界で最も面白い場所で、ポテンシャルが高いと考える。
 - ：シビックプライド研究会や東京ピクニッククラブなどで、ウォーターフロントの陸側で活動をしている。公共空間やそこでの出来事のデザインは、都市に受け入れられていると感じられるかどうかを大きく左右する。公共空間を手がかりにまちに関わることができれば、まちに対する誇りが醸成される。都市のウェルカム感の表現も大事だろう。公共空間のような「みんなのもの」は、「自分のもの」でないと捉えられ、結局「誰のものでもなく」なりがち。しかし、ユーザの手に

公共空間を取り戻したい。大阪では使いながら水辺を変えつつあり、少々うらやましく感じる。東京の公共空間を水辺から変えていくきっかけになれば嬉しい。

- 〇〇：一般的に事業が投融資の対象になるにはキャッシュフローが確保されているかどうかのポイント。再生可能エネルギーの全量買い取り制度が導入され、誰も見向きもしなかった土地ほどメガソーラーの立地に適しているため突然キャッシュフローを生み出すようになったように、打つ政策次第では無から有が生まれることもある。既存の建築物が立ち並ぶ都市の水辺の再構築には、キャッシュフローを向上させるためのリノベーションがポイントになると思うが、不動産と金融と言う視点からアイデアも出していきたい。
- 〇〇：行政内では、一方でやれそうな流れになっても、もう一方で反対されて実現しないことがよくある。熊本でうまくいった事例があるが、河川、道路、再開発、全て同じ事務所から発注されるというのが大事。また、中央と現場との感覚にずれがあるので、そこを乗り越えてほしい。
- 〇〇：まちを使いこなして楽しみ方を共有すること、その舞台となる環境の形成、そして、それを支える仕組みづくりが必要である。また、そのプロセスに関われることが、まちに誇りを持つことに重要な視点である。水都大阪では民間の提案から実現に結びつけていくという流れを今年から作っている。また、「川を表側にしていく」「水辺からまち全体を使いこなす」「各種事業を協働する」「活動を支えるサポーターの教育を行う」「イベントから日常に広めていく」「府、市、民間、ひとつになってやっていく」「水辺に接した空いている土地を最大限利用する」などの考えで提案をしている。
- 〇〇：川は右岸左岸や橋の東西で違う文化をつくっているのが面白い。お金を使わないでどうやってファンドレイジングしながら面白い事をやるかに関心を持っている。四万十川の砂浜美術館を参考に隅田川河口でやりたいと考えている。ファミリーがくるような仕組みづくりが重要。自転車で川を走るときに、行きか帰りのどちらかを船で運んでくれるようになると利用が高まると思う。川から生活が見えるようになると面白い。川沿いに（生活に密着した）マーケットができないかと考える。日本財団 CANPAN (NPO の情報ネットワーク) の理事などもやっており、様々な橋渡しをする役割と考えている。
- 〇〇：企業や地域のモノづくり、誇りをどのように作っていくか、ということに関わってきたが、まちづくりの活動も広がってきた。デザインを受け取る側がいつ、どのように、どうやって受け取るかが重要と考える。いかにまちづくりの計画を地域に伝えていくか。日々目にしているものと記憶とをどのようにつなげてアプロ

一チしていくかに興味がある。隅田川は色々なバリエーションを楽しめる川なので、それをつなぎながらどうやって伝えていくか楽しみに思っている。また、人に伝えるときにモデル事業がすごく重要。

- 〇〇：水都大阪系の仕事をしている。道頓堀に長く携わっており、「新しいこと、とんでもないことをやりたい」という想いはある。場所により分けて考える必要があると考えており、都市では、民間参入と持続可能な仕組みづくりが必要と考える。色々な取組みを行おうとすると役所的にはどこが何を負担するかなどで問題になることもある。
- 〇〇：諸外国だと船が通勤手段など日常生活にとけ込んでいる。また、オリンピックは海辺に施設があり、地下鉄の延伸や橋を架けるなどの話もありお金や時間もかかると考えられるが、それらと並行して、水運に光を当てて考える必要があるという問題意識を持っている。
- 〇〇：河川は安全第一が使命であるが、貴重なオープンスペースでありうまく活用していきたい。日常的空間と非日常的空間の2つの側面があり、利用方法が異なる。前者は居住者の散策など。後者はスカイツリー周りなど外からの人にどのようにアピールするかなどが重要になると考える。二天門のオープンカフェの取組みもその一環として実施した。

(4) その他

- ・事務局より今後の予定について説明するとともに議論のポイント案について示し、次回の議論にしたい旨の説明。

第1回 水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 出席者

(敬称略・50音順)

	氏名	所属	出欠
コメンテーター	井出 玄一	一般社団法人ポート・ピープル・アソシエーション代表理事	○
コメンテーター	伊藤 香織	東京理科大学工学部建築学科准教授	○
コメンテーター	金井 司	三井住友信託銀行株式会社理事・CSR担当部長	○
コメンテーター	岸井 隆幸	日本大学工学部土木工学科教授	○
コメンテーター	忽那 裕樹	株式会社E-design 代表取締役	○
コメンテーター	久米 信行	久米繊維工業株式会社取締役会長	○
コメンテーター	紫牟田伸子	紫牟田伸子事務所代表	○
コメンテーター (座長)	陣内 秀信	法政大学デザイン工学部建築学科教授	○
コメンテーター	藁田 博行 (代理)	大阪府都市整備部河川室河川環境課長	○
コメンテーター	辻田 昌弘	三井不動産株式会社S & E 総合研究所長	○
コメンテーター	遠山 正道	株式会社スマイルズ代表取締役社長	×
コメンテーター	中島 高志	東京都建設局河川部長	○
アドバイザー	渥美 雅裕	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課課長	○
アドバイザー	藤井 政人	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官	○